

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	NPO 法人アイゼン
-----	------------

取組の名称	百合ヶ丘・新百合ヶ丘・柿生片平・南生田 子ども食堂
実施場所	<p>◆百合ヶ丘 漁魚の海 麻生区百合丘1-16-36</p> <p>◆百合ヶ丘 百合丘ルミナス保育園 麻生区百合丘1-9-2</p> <p>◆新百合ヶ丘 麻生プレップスクール 麻生区万福寺1丁目10-10</p> <p>◆柿生片平 「結」ケアセンターあさお 麻生区片平2-22-1-103</p> <p>◆南生田 「結」ケアセンターいくた 多摩区南生田1-31-7</p>
対象地域	百合ヶ丘・新百合ヶ丘・柿生・南生田1丁目 近隣
対象地域の特色・課題	<p>◆特色 新興住宅街や高級マンションがある。他地域より定住した人が多い。小田急線が谷沿いにある、その両側が丘になっているような地形</p> <p>◆課題 待機児童、共働き家庭によるこどもが希望する居場所が少ない。共働き家庭への支援が少なく感じている人が多。学生のしたいボランティアの場所がない。</p>
取組の趣旨・目的	<p>◆わくわくプラザや習い事から帰って一人ご飯を食べている子どもや、子育てで頑張っている働くパパ・ママが、地域で安全・安心に過ごせる居場所づくり。</p> <p>◆子ども・若者が健やかに成長できるよう、地元法人や店舗、地元住民や学生と連携・協働しながら、地域のつながり、互いに助け合い・支えあうことのできるまちづくり</p>
実施内容・実施スケジュール	<p>月1回開催、年間11回開催、コロナ感染症の影響で2月は全て、1月は一部お休みました。</p> <p>◆漁魚の海、百合丘ルミナスで6回持ち帰りを実施。</p> <p>◆柿生でも1回持ち帰りを実施</p>

参加者の年代	子 5歳～13歳 親 30～45歳	定員 (1回あたり)	120名
実施頻度	月1回	活動日数 (年間)	11日
スタッフ体制	理事 3名 開催場所のスタッフの協力 10名くらい ボランティア 30名程度 合計30～40名/回		
連携する団体・ 連携の手法	<p>◆実施場所</p> 漁魚の海 麻生区百合丘1-16-36 百合丘ルミナス保育園 麻生区百合丘1-9-2 麻生プレップスクール 麻生区万福寺1丁目10-10 「結」ケアセンターあさお 麻生区片平2-22-1-103 「結」ケアセンターいくた 多摩区南生田1-31-7 ※今年度は助成金対象外で他1ヶ所開設中野島 <p>◆チラシを配布</p> 多摩・麻生区の保育園・幼稚園・商店など40ヶ所以上 麻生区小中学校へ6000枚のチラシ配布 年6回 <p>◆WEB</p> Facebook、Twitter、WEB ※WEB内広告を企業支援で掲載 <p>◆タウンニュース (企業支援で有料広告・無料取材)</p> <p>◆市政記者クラブへチラシの配布</p>		
取組実施により 見込まれた効果	<p>◆同世代のお母さんが交流の場になっている。</p> <p>◆世代が変わっても保育園の子どもたちの口コミで広がっている。</p> <p>◆保育園の帰りのお母さんの団体で来ることが多い。親子でわいわいしながら食べれる場所は少ないらしいです。</p> <p>◆小学生と親との待ち合わせ場所で使っている。</p> <p>◆小学生だけで参加する子が増えている。</p> <p>◆日本女子大学付属高校・百合丘高校・都立立川高校などの生徒がボランティアで10名程度参加。</p> <p>◆2つのロータリークラブより寄付金10万円ずつ20万円程度集まった</p> <p>◆寄付金が他にも①募金形式 ②振込で入っている。</p> <p>◆麻生川桜祭りでの広報活動の認知度が広がっている。町田市か</p>		

らのボランティアの応募も出てきた。

- ◆チラシを小中学校で配布できるようになりかなり増えている。
- ◆同日で多摩 SDC と連携して行っている。
- ◆参加者の問い合わせは WEB が多い。
- ◆園児が学生ボランティアと交わっている姿
- ◆わくわくぷらざのアルバイトがボランティアで加わっている。
- ◆川崎市に住んでいる学生ボランティアが継続して増えている
- ◆協力企業のご家族のボランティアもある。
- ◆今年度はコロナ禍においても活動で苦勞をした。しかし大学生が地元にいることが多かったのでボランティアが急増した年になった。その反面 30 歳以上の主婦などのボランティアの応募が減った。